

【学則別表第5の1】先進工学部生命化学科 進級・卒業条件表(2022年度入学生用)

群	科目区分	3年次科目履修条件	卒業論文着手に必要な単位数	卒業に必要な単位数		
[第Ⅰ群] 総合教育科目	a) 総合文化科目	67単位以上 (必修30単位を含む) 注1)	14単位以上	14単位以上		
	b) 外国語科目		8単位以上(必修6単位を含む)	8単位以上(必修6単位を含む)		
	c) 保健体育科目		2単位以上(必修)	2単位以上(必修)		
	d) キャリア支援科目					
[第Ⅱ群] 専門共通科目	a) 共通基礎科目		10.5単位以上(必修)	10.5単位以上(必修)		
	b) 専門基礎科目		16単位以上(必修) 8単位以上(選択必修)	16単位以上(必修) 8単位以上(選択必修)		
	c) 学部共通基礎科目					
[第Ⅲ群] 専門科目	A群		実験系	32 単 位 以 上	34 単 位 以 上	実験系7単位以上(必修3単位含む)および演習系2単位以上(必修)を含む
			演習系			
	B群		講義系			化学系特別枠を含め、最大8単位まで算入できる注2)
		卒業論文	8単位			
必要な合計単位数			114単位以上	124単位以上		

<進級に関わる注意事項>

注1参照) 2年次までに設置されている第Ⅲ群実験系の科目4単位以上、うち選択必修科目を3単位以上修得していること。

注2参照) 卒業着手条件化学系特別枠として、応用化学科または環境化学科第Ⅲ群A群の専門科目から最大8単位まで修得し、生命化学科の専門科目(第Ⅲ群専門科目B群科目)とすることができる。履修できる科目として次の科目を指定する。

〈応用化学科〉化学工業の魅力、量子化学、化学者のための電気計測、表面工学、高分子物理化学、触媒設計、機能性先端材料、界面化学

〈環境化学科〉移動現象、分離工学、化学装置設計、土壤環境工学、環境エネルギー工学、環境材料化学、高分子材料化学、機械工学・材料加工学概論、化学工業総論、電気・計測工学概論

★上記の条件を充足しているか否かの判定は、毎年度末に行う。

なお、年度末に充足できなかった場合、次年度以降の前期末時点でも判定を行うことがあり、当学科では、以下のとおりとする。

条件の種類	前期末判定の有無
3年次科目履修条件	有
卒業論文着手	無
卒業	有(学則の定めにより)

<大学院接続型コースについて>

上記履修規定に加えて以下の条件を満たす必要がある。

■3年次前期末時点でGPA3.0以上。

■卒業論文着手条件に合格するためには「先進工学部特別研究I」を3年次に履修し単位を修得する必要がある。

■卒業条件を満たすには、「先進工学部特別研究II」を3年次あるいは4年次に履修し単位を修得する必要がある。

■なお、「先進工学部特別研究I」「先進工学部特別研究II」の履修は大学院接続型コースの学生のみ認められる。

【学則別表第5の2】先進工学部応用化学科 進級・卒業条件表(2022年度入学生用)

群	科目区分	3年次科目履修条件	卒業論文着手に必要な単位数	卒業に必要な単位数
[第Ⅰ群] 総合教育科目	a) 総合文化科目 b) 外国語科目 c) 保健体育科目 d) キャリア支援科目	67単位以上 (必修31単位を含む)	14単位以上 8単位以上 (必修6単位を含む) 2単位以上 (必修2単位を含む)	14単位以上 8単位以上 (必修6単位を含む) 2単位以上 (必修2単位を含む)
	[第Ⅱ群] 専門共通科目		a) 共通基礎科目	10単位以上 (必修10単位を含む)
b) 専門基礎科目 c) 学部共通基礎科目			26単位以上 (必修20単位を含む) (選択必修5科目から3科目 (6単位) 以上を含む)	26単位以上 (必修20単位を含む) (選択必修5科目から3科目 (6単位) 以上を含む)
[第Ⅲ群] 専門科目			実験系	8単位以上 (2年次実験系4科目中3科目以上, 3年次実験系4科目中3科目以上を 含む)
	演習系		3単位以上 (必修1単位を含む)	3単位以上 (必修1単位を含む)
	A群		29 単 位 以 上 (共通専門科目8単位以上, コ ース選択8単位以上を含む) 注 1) 注2)	29 単 位 以 上 (共通専門科目8単位以上, コ ース選択8単位以上を含む)
	B群	化学系特別枠を含め、 最大8単位まで算入できる	化学系特別枠を含め、 最大8単位まで算入できる	
	卒業論文系		8単位	
必要な合計単位数			114単位以上	124単位以上

<進級に関わる注意事項>

注1参照) 3年次科目のうち、応用化学コースはA群応用化学分野から、生活・食品化学コースはA群生活・食品化学分野から、それぞれ8単位以上を修得する。

注2参照) 卒業論文着手条件化学系特別枠として、生命化学科および環境化学科第Ⅲ群A群の専門科目から最大8単位まで履修し、応用化学科の専門科目(B群)とすることができる。履修のできる科目として次の科目を指定する。
生命化学科＝分子生物学、有機化学Ⅳ、有機化学Ⅴ、創薬化学、ケミカルバイオロジー、植物生理学、環境生物化学
環境化学科＝移動現象、分離工学、化学装置設計、土壌環境工学、環境エネルギー工学、環境材料化学、高分子材料化学、機械工学・材料加工学概論・化学工業総論

<その他の科目修得ルール>

■コース制について

3年次に応用化学コース、生活・食品化学コースのいずれかを選択する。

■2年次に以降に開講される実験系科目を履修するには「化学実験」または「応用化学基礎実験」のうち少なくともどちらか一方を履修しておくこと。

■3年次実験科目「応用化学実験A、B、C、D」は、選択必修4科目中3科目以上修得する必要がある、「安全化学」と「科学と倫理」を既に履修しているか、並行して履修していなければ受講できない。

■第Ⅲ群実験系「応用化学基礎実験」を履修するには、第Ⅱ群a) 共通基礎科目「化学実験」を履修しておくことが望ましい。

■食品衛生管理者・食品衛生監視員養成課程について

食品衛生法上の区分A群からD群の科目については、必修科目を取得の上、選択科目から8単位以上、合計34単位以上取得し、食品衛生法上の区分E群の科目については、必修科目を取得の上、選択科目から8単位以上、合計10単位以上取得し、全体で総単位数44単位以上取得すること。ここでいう必修科目と選択科目は、本養成課程において指定されるもので、応用化学科の指定とは異なる場合がある。

他の養成施設より編入学する場合には、本養成課程修了条件に算入される場合があるので、学科長に相談すること。

★上記の条件を充足しているか否かの判定は、毎年度末に行う。

なお、年度末に充足できなかった場合、次年度以降の前期終了時点でも判定を行うことがあり、当学科では、以下のとおりとする。

条件の種類	前期末判定の有無
3年次科目履修条件	有
卒業論文着手	無
卒業	有（学則の定めにより）

<大学院接続型コースについて>

上記履修規定に加えて以下の条件を満たす必要がある。

■3年次前期終了時点でGPA3.0以上。

■卒業論文着手条件に合格するためには「先進工学部特別研究I」を3年次に履修し単位を修得する必要がある。

■卒業条件を満たすには、「先進工学部特別研究II」を3年次あるいは4年次に履修し単位を修得する必要がある。

■なお、「先進工学部特別研究I」「先進工学部特別研究II」の履修は大学院接続型コースの学生のみ認められる。

【学則別表第5の3】 先進工学部環境化学科 進級・卒業条件表(2022年度入学生用)

群	科目区分	3年次科目履修条件	卒業論文着手に必要な単位数	卒業に必要な単位数
[第Ⅰ群] 総合教育科目	a) 総合文化科目	64単位以上 含む 必修科目 14単位 および 第Ⅱ群 b) 専門基礎選択 必修科目 科目8単位以上、 第Ⅲ群 実験系科目選択 必修科目1単位以上	14単位以上	14単位以上
	b) 外国語科目		8単位以上(含む必修6単位)	8単位以上(含む必修6単位)
	c) 保健体育科目		2単位以上(必修)	2単位以上(必修)
	d) キャリア支援科目			
[第Ⅱ群] 専門共通科目	a) 共通基礎科目		必修13単位	必修13単位
	b) 専門基礎科目		選択必修14単位以上 注1) 注2)	選択必修14単位以上
	c) 学部共通基礎科目			
[第Ⅲ群] 専門科目	実験系・演習系		必修2単位 選択必修2単位以上 注3)	必修2単位 選択必修2単位以上
	A群		52単位以上 選択必修12単位以上 注4) 注5) 注6) 注7)	62単位以上 選択必修12単位以上
	B群		8単位まで卒業単位数に算入できる。	8単位まで卒業単位数に算入できる。
	卒業論文系			10単位(必修)
必要な合計単位数		64単位以上	114単位以上	124単位以上

<進級に関わる注意事項>

- 注1 参照) 卒業論文着手条件として、[第Ⅱ群] b) 専門基礎科目から、選択必修科目「地球環境工学」、「物理化学Ⅰ」、「無機化学Ⅰ」、「有機化学Ⅰ」、「分析化学Ⅰ」(各2単位計10単位)のうち8単位以上を修得していること。
- 注2 参照) 卒業論文着手条件として、[第Ⅱ群] b) 専門基礎科目から、選択必修科目「生物化学」、「物理化学Ⅱ」、「無機化学Ⅱ」、「有機化学Ⅱ」、「分析化学Ⅱ」(各2単位計10単位)のうち6単位以上を修得していること。
- 注3 参照) 卒業論文着手条件として、[第Ⅲ群] 専門科目から、[実験系] 選択必修科目「物理化学実験」「環境分析実験」「機器分析実験」のうち、2単位以上を修得していること。
- 注4 参照) 卒業論文着手条件として、[第Ⅲ群] 専門科目から、[A群] 選択必修科目「移動現象」「分離工学」「粉体工学」「化学装置設計」(各2単位計8単位)のうち4単位以上を修得していること。
- 注5 参照) 卒業論文着手条件として、[第Ⅲ群] 専門科目から、[A群] 選択必修科目「大気環境工学」「水環境工学」「土壌環境工学」「環境生物工学」(各2単位計8単位)のうち4単位以上を修得していること。
- 注6 参照) 卒業論文着手条件として、[第Ⅲ群] 専門科目から、[A群] 選択必修科目「環境エネルギー工学」「環境材料化学」「高分子材料化学」「材料強度学」「エネルギー装置設計」(各2単位計10単位)のうち4単位以上を修得していること。
- 注7 参照) 卒業論文着手条件化学系特別枠として、生命化学科、応用化学科第Ⅲ群の専門科目から最大10単位まで履修し、環境化学科の第Ⅲ群専門科目A群とすることができる。履修のできる科目として次の科目を指定する。生命化学科＝公衆衛生学、食品化学、薬品分析化学、栄養化学、微生物学、環境生物化学、錯体化学、生物物理化学、医薬品合成化学、創薬化学
 応用化学科＝有機工業化学、量子化学、電気化学、無機固体化学、高分子合成化学、表面工学、高分子物理化学、触媒設計、機能性先端材料、界面化学

<その他の科目修得ルール>

- 先進工学部環境化学科への配属を志望する学生は「環境化学概論」を履修することが望ましい。
- 「環境化学基礎実験」は2年次以降の実験科目の導入科目に位置づけられるので、履修することが望ましい。
- 「化学実験」および「環境化学基礎実験」を履修していなければ、2年次以降の実験科目を履修することはできない。
- 「物理化学Ⅰ」は2年次以降の専門科目の基礎となる科目なので、履修することが望ましい。
- 「物理化学実験」「環境分析実験」「機器分析実験」の3科目を履修しなければ、「環境化学実験A、B」を履修することはできない。

■「環境化学実験A, B」は「物理化学実験」「環境分析実験」「機器分析実験」のうち2単位以上を修得していなければ受講できない。

■「環境施設見学」は、実際の環境保全施設・企業等の見学を行うと共に環境化学科の研究室の見学を行うことで卒業論文着手の際の有益な情報を事前に得られるので、履修することが望ましい。

■「化学工学基礎」は2年後期から開講される化学工学系の専門科目の導入科目に位置づけられるので、履修することが望ましい。

■「環境化学セミナー」は、3年次前期終了時点で95単位以上を修得し、かつ総合文化科目10単位以上、第Ⅱ群(b)専門基礎科目の選択必修科目「地球環境工学」「物理化学Ⅰ」「無機化学Ⅰ」「有機化学Ⅰ」「分析化学Ⅰ」各2単位計10単位のうち8単位以上、「生物化学」「物理化学Ⅱ」「無機化学Ⅱ」「有機化学Ⅱ」「分析化学Ⅱ」各2単位計10単位のうち、6単位以上を修得していること。なおかつ、以下の第Ⅲ群専門科目A群の卒業論文着手条件を、3年後期履修により達成可能な場合、受講することが可能である。

- ①〔A群〕選択必修科目「移動現象」「分離工学」「粉粒体工学」「化学装置設計」(各2単位計8単位)のうち4単位以上を修得していること。
- ②〔A群〕選択必修科目「大気環境工学」「水環境工学」「土壌環境工学」「環境生物工学」(各2単位計8単位)のうち4単位以上を修得していること。
- ③〔A群〕選択必修科目「環境エネルギー工学」「環境材料化学」「高分子材料化学」「材料強度学」「エネルギー装置設計」(各2単位計10単位)のうち4単位以上を修得していること。

★上記の条件を充足しているか否かの判定は、毎年度末に行う。

なお、年度末に充足できなかった場合、次年度以降の前期終了時点でも判定を行うことがあり、当学科では、以下のとおりとする。

条件の種類	前期末判定の有無
3年次科目履修条件	有
卒業論文着手	無
卒業	有(学則の定めにより)

<大学院接続型コースについて>

上記履修規定に加えて以下の条件を満たす必要がある。

■3年次前期終了時点でGPA3.0以上。

■卒業論文着手条件に合格するためには「先進工学部特別研究Ⅰ」を3年次に履修し単位を修得する必要がある。

■卒業条件を満たすには、「先進工学部特別研究Ⅱ」を3年次あるいは4年次に履修し単位を修得する必要がある。

■なお、「先進工学部特別研究Ⅰ」「先進工学部特別研究Ⅱ」の履修は大学院接続型コースの学生のみ認められる。

【学則別表第5の4】 先進工学部応用物理学科 進級・卒業条件表 (2022年度入学生用)

群	科目区分	3年次科目履修条件	卒業論文着手に必要な単位数	卒業に必要な単位数		
[第Ⅰ群] 総合教育科目	a) 総合文化科目 b) 外国語科目 c) 保健体育科目 d) キャリア支援科目	62単位以上	8単位以上 8単位以上 (含む必修6単位) 必修2単位	14単位以上 8単位以上 (含む必修6単位) 必修2単位		
	[第Ⅱ群] 専門共通科目		18単位以上	18単位以上		
[第Ⅲ群] 専門科目	a) 共通基礎科目	必修28単位 選必 (数学基礎) 4単位以上 (物理基礎) 4単位以上	合計59単位 以上	必修39単位 選必 (数学基礎) 4単位以上 (物理基礎) 8単位以上		
	b) 専門基礎科目				合計61単位 以上	必修43単位 選必 (数学基礎) 4単位以上 (物理基礎) 8単位以上
	c) 学部共通基礎科目					
	卒業論文系			8単位		
必要な合計単位数		62単位以上	102単位以上	124単位以上		

★上記の条件を充足しているか否かの判定は、毎年度末に行う。

なお、年度末に充足できなかった場合、次年度以降の前期末時点でも判定を行うことがあり、当学科では、以下のとおりとする。

条件の種類	前期末判定の有無
3年次科目履修条件	無
卒業論文着手	無
卒業	有 (学則の定めにより)

＜大学院接続型コースについて＞

上記履修規定に加えて以下の条件を満たす必要がある。

- 3年次前期末時点でGPA3.0以上。
- 卒業論文着手条件に合格するためには「先進工学部特別研究Ⅰ」を3年次に履修し単位を修得する必要がある。
- 卒業条件を満たすには、「先進工学部特別研究Ⅱ」を3年次あるいは4年次に履修し単位を修得する必要がある。
- なお、「先進工学部特別研究Ⅰ」「先進工学部特別研究Ⅱ」の履修は大学院接続型コースの学生のみ認められる。

【学則別表第5の5】先進工学部機械理工学科 進級・卒業条件表(2022年度入学生用)

群	科目区分	3年次科目履修条件		創造工学セミナーⅡの 着手に必要な単位数	卒業に必要な単位数		
[第Ⅰ群] 総合教育科目	a) 総合文化科目 b) 外国語科目 c) 保健体育科目 d) キャリア支援科目	62 単位 以上 (含右記の 必修 24 単位)	b) の必修 4単位	12単位以上 8単位以上(含必修6単位) 2単位以上(含必修2単位)	14単位以上 8単位以上(含必修6単位) 2単位以上(含必修2単位)		
	[第Ⅱ群] 専門共通科目			必修 20単位	35単位以上 (含必修18単位, 選択必修17単位以上)	35単位以上 <u>注1)</u> (含必修18単位, 選択必修17単位以上)	
[第Ⅲ群] 専門科目			A群		専門工学科目Ⅰ	35単位以上 (含必修9単位, 選択必修26単位以上)	49単位以上 <u>注1)</u> (含必修17単位, 選択必修32単位以上)
					専門工学科目Ⅱ	4単位以上	8単位以上
B群			2単位以上	2単位以上			
必要な合計単位数			62単位以上		104単位以上	124単位以上	

注1) 選択必修科目について、カリキュラム表内備考欄にも注釈があり、卒業に必要な条件となる。

★上記の条件を充足しているか否かの判定は、毎年度末に行う。

なお、年度末に充足できなかった場合、次年度以降の前期末時点でも判定を行うことがあり、当学科では、以下のとおりとする。

条件の種類	前期末判定の有無
3年次科目履修条件	有
卒業論文着手	無
卒業	有(学則の定めにより)

<大学院接続型コースについて>

上記履修規定に加えて以下の条件を満たす必要がある。

- 3年次前期末時点でGPA3.0以上。
- 卒業論文着手条件に合格するためには「先進工学部特別研究Ⅰ」を3年次に履修し単位を修得する必要がある。
- 卒業条件を満たすには、「先進工学部特別研究Ⅱ」を3年次あるいは4年次に履修し単位を修得する必要がある。
- なお、「先進工学部特別研究Ⅰ」「先進工学部特別研究Ⅱ」の履修は大学院接続型コースの学生のみ認められる。

【学則別表第5の6】工学部機械工学科 進級・卒業条件表(2022年度入学生用)

群	科目区分	3年次科目履修条件	卒業論文着手に必要な単位数	卒業に必要な単位数
[第Ⅰ群] 総合教育科目	a) 総合文化科目	62単位以上	10単位以上	14単位以上
	b) 外国語科目		8単位以上(含む必修6単位)	8単位以上(含む必修6単位)
	c) 保健体育科目		必修2単位	必修2単位
	d) キャリア支援科目			
[第Ⅱ群] 専門共通科目	a) 共通基礎科目		必修15単位	必修15単位
	b) 専門基礎科目		選択必修4単位以上(化学及び演習Ⅰ, 化学及び演習Ⅱ, 化学物質論, 化学現象, 化学実験より3単位含む)	選択必修4単位以上(化学及び演習Ⅰ, 化学及び演習Ⅱ, 化学物質論, 化学現象, 化学実験より3単位含む)
[第Ⅲ群] 専門科目	専門科目Ⅰ		必修10単位	必修10単位
	専攻コース 専門科目Ⅱ		必修21単位	必修21単位
	専門科目Ⅱ (各コース共通)		選択必修4単位以上	選択必修4単位以上
	専門科目に関する上記 以外の必要単位数		必修6単位 選択必修16単位以上	必修6単位 選択必修12単位以上
	卒業論文系		選択必修6単位以上(特別講義または 学外研修いずれか2単位を含む)	
	卒業論文系		上記単位数の他に〔第Ⅲ群〕専門科目Ⅰ・Ⅱの中から4単位以上	
必要な合計単位数		62単位以上	104単位以上	124単位以上

<その他の科目修得ルール>

■専攻コースの振り分けについて

2年次後期にコースの振り分けが行われ、3年次から各専攻コースに分かれる。専攻コースはエコエネルギー、メカノデザインの2コースである。3年次以降は、選択したコースごとの専門科目ⅠおよびⅡを履修する。コースの振り分けは、学生の希望をできるだけ尊重して行うが、特定のコースに偏った場合は定員の範囲内で調整する。

■機械工学科以外の開設科目のうち同一名称もしくはその内容に著しい重複があると認められる科目を重ねて修得しても、卒業論文着手条件及び卒業条件の単位数には算入されない。詳しい内容については履修の手引きを参照し、学科の掲示に注意すること。また、他学科の「機械工学概論」に相当する科目も卒業論文着手に必要な単位数に含まれない。

■専門科目で「……Ⅰ」「……Ⅱ」のように番号のついている科目は、番号の小さい科目を先に修得しておくことが望ましい。もし修得していない場合は、その都度、担当教員の承認を得てから選択すること。

★上記の条件を充足しているか否かの判定は、毎年度末に行う。

なお、年度末に充足できなかった場合、次年度以降の前期末時点でも判定を行うことがあり、当学科では、以下のとおりとする。

条件の種類	前期末判定の有無
3年次科目履修条件	有
卒業論文着手	有
卒業	有(学則の定めにより)

【学則別表第5の7a】工学部機械システム工学科基礎工学コース 進級・卒業条件表

(2022年度入学生用)

群	科目区分	3年次科目履修条件	卒業論文着手に必要な単位数	卒業に必要な単位数		
[第Ⅰ群] 総合教育科目	a) 総合文化科目 b) 外国語科目 c) 保健体育科目 d) キャリア支援科目	62単位以上	10単位以上 8単位以上（含む必修6単位） 必修2単位	14単位以上 8単位以上（含む必修6単位） 必修2単位		
	[第Ⅱ群] 専門共通科目		a) 共通基礎科目	19単位以上 （必修15単位，選択必修4単位以上） 注1)	19単位以上 （必修15単位，選択必修4単位以上） 注1)	
b) 専門基礎科目			10単位以上（必修10単位）	10単位以上（必修10単位）		
[第Ⅲ群] 専門科目	統 合 化 科 目		62単位以上	49単位以上 （必修21単位，選択必修28単位以上） ただし、「システム工学A」「システム工学B」のうちから2単位以上の修得を要する。	12単位以上 （必修10単位，選択必修2単位以上）	
	基 礎 科 目				基 盤 科 目	15単位以上 （必修11単位，選択必修4単位以上） 注2)
					力 学 系 科 目	9単位以上
		設 計 ・ 材 料 系			6単位以上	
		電 子 機 械 ・ 生 産 工 学 系			9単位以上 注3)	
	応 用 科 目	上記単位数の他に応用科目を含めた〔第Ⅲ群〕の中から4単位以上			上記単位数の他に応用科目を含めた〔第Ⅲ群〕の中から4単位以上	
卒 業 論 文		8単位				
必要な合計単位数		62単位以上	104単位以上	124単位以上		

<進級に関わる注意事項>

注1 参照) 第Ⅱ群専門共通科目・a) 共通基礎科目の選択必修4単位のうち、「化学及び演習Ⅰ」「化学及び演習Ⅱ」「化学物質論」「化学現象論」及び「化学実験」のうちから3単位以上の修得を要する。

注2 参照) 第Ⅲ群基礎科目基盤科目の選択必修4単位は、「システム工学A」「システム工学B」のうちから2単位、「機械システム工学加工演習」「機械システム製図設計」のうちから2単位の修得を要する。

注3 参照) 「システム工学A」と「システム工学B」の両方を修得した場合は、2単位を電子機械・生産系科目に算入できる。

<その他の科目修得ルール>

■ 専門科目で「……Ⅰ」「……Ⅱ」のように番号のついている科目は、番号の小さい科目を先に取得しておくことが望ましい。もし修得していない場合は、その都度、担当教員の承認を得てから選択すること。

★上記の条件を充足しているか否かの判定は、毎年度末に行う。

なお、年度末に充足できなかった場合、次年度以降の前期終了時点でも判定を行うことがあり、当学科では、以下のとおりとする。

条件の種類	前期末判定の有無
3年次科目履修条件	有
卒業論文着手	有
卒業	有（学則の定めにより）

【学則別表第5の7b】工学部機械システム工学科総合工学コース 進級・卒業条件表

(2022年度入学生用)

群	科目区分	3年次科目履修条件	卒業論文着手に必要な単位数	卒業に必要な単位数
[第Ⅰ群] 総合教育科目	a) 総合文化科目	62単位以上	10単位以上	14単位以上
	b) 外国語科目		8単位以上（含む必修6単位）	8単位以上（含む必修6単位）
	c) 保健体育科目		必修2単位	必修2単位
	d) キャリア支援科目			
[第Ⅱ群] 専門共通科目	a) 共通基礎科目		19単位以上 （必修15単位，選択必修4単位以上） 注1)	19単位以上 （必修15単位，選択必修4単位以上） 注1)
	b) 専門基礎科目		10単位以上（必修10単位）	10単位以上（必修10単位）
[第Ⅲ群] 専門科目	力学系科目		49単位以上 （必修21単位，選択必修28単位以上） ただし、「システム工学A」「システム工学B」のうちから2単位以上の修得を要する。	9単位以上
	専門科目Ⅰ			22単位以上（必修13単位，選択必修9単位以上）
	専門科目Ⅱ			20単位以上 （必修8単位，選択必修12単位以上）
	卒業論文		上記単位数の他に〔第Ⅲ群〕専門科目の中から4単位以上	上記単位数の他に〔第Ⅲ群〕専門科目の中から4単位以上
	卒業論文		8単位	
必要な合計単位数		62単位以上	104単位以上	124単位以上

＜進級に関わる注意事項＞

注1参照) 第Ⅱ群専門共通科目・a) 共通基礎科目の選択必修4単位のうち、「化学及び演習Ⅰ」「化学及び演習Ⅱ」「化学物質論」「化学現象論」及び「化学実験」のうちから3単位以上の修得を要する。

＜その他の科目修得ルール＞

■専門科目で「……Ⅰ」「……Ⅱ」のように番号のついている科目は、番号の小さい科目を先に取得しておくことが望ましい。もし修得していない場合は、その都度、担当教員の承認を得てから選択すること。

★上記の条件を充足しているか否かの判定は、毎年度末に行う。

なお、年度末に充足できなかった場合、次年度以降の前期終了時点でも判定を行うことがあり、当学科では、以下のとおりとする。

条件の種類	前期末判定の有無
3年次科目履修条件	有
卒業論文着手	有
卒業	有（学則の定めにより）

【学則別表第5の8】工学部電気電子工学科 進級・卒業条件表(2022年度入学生用)

群	科目区分	3年次科目履修条件	卒業論文着手に必要な単位数	卒業に必要な単位数
[第Ⅰ群] 総合教育科目	a) 総合文化科目 b) 外国語科目 c) 保健体育科目 d) キャリア支援科目	64単位以上 必修科目 25単位以上	8単位以上 8単位以上(含む必修6単位) 必修2単位	14単位以上 8単位以上(含む必修6単位) 必修2単位
[第Ⅱ群] 専門共通科目	a) 共通基礎科目 b) 専門基礎科目		16.5単位以上	16.5単位以上
[第Ⅲ群] 専門科目	専門科目		合計61単位以上 (含む必修31単位)	合計63単位以上 (含む必修33単位)
	卒業論文系			8単位以上
必要な合計単位数		64単位以上	102単位以上	124単位以上 (遠隔60単位以下)

<その他の科目修得ルール>

■電気電子工学科において修得した科目と同一名称の他学科、他コースの開設科目を重ねて修得しても、卒業要件の単位には算入されない。名称の異なる科目であってもその内容に著しい重複があると認められるときは、その単位の全部または一部を卒業要件の単位には算入しないので注意すること。該当する科目については、掲示板もしくは、電気電子工学科学修ガイダンスを参照すること。

★上記の条件を充足しているか否かの判定は、毎年度末に行う。

なお、年度末に充足できなかった場合、次年度以降の前期終了時点でも判定を行うことがあり、当学科では、以下のとおりとする。

条件の種類	前期末判定の有無
3年次科目履修条件	無
卒業論文着手	無
卒業	有(学則の定めにより)

【学則別表第5の9】建築学部 進級・卒業条件表(2022年度入学生用)

群	科目区分	3年次科目履修条件	卒業研究着手条件	卒業条件
[A群] 総合教育科目	a) 総合文化科目		1年次指定選択必修科目4単位以上 注1)	合計24単位以上 (a) 総合文化科目, b) 自然科学系 科目の1年次指定選択必修科目を 含む)
	b) 自然科学系科目		1年次指定選択必修科目4単位以上 注1)	
	c) 外国語科目		必修科目6単位	8単位以上 (必修科目6単位を含む)
	d) 保健体育科目		必修科目2単位 (上限5単位)	2単位以上 (必修科目2単位を含む, 上限5単位)
	e) キャリア支援科目			
[B群] 専門科目	必修科目	必修科目・選択必修科 目合わせて34単位以上	1, 2年次配当のすべての必修科目38 単位	1, 2, 3年次配当のすべての必修科目 40単位
	選択必修科目		2単位 (上限2単位)	2単位 (上限2単位)
	a) 専門基礎科目 b) 専門科目	選択科目		32単位以上 (建築学部他学科3, 4年次配当選択 科目を16単位まで含められる)
		卒業研究		8単位
必要な合計単位数		58単位以上 注2)	100単位以上 注2)	124単位以上

<進級に関わる注意事項>

注1 参照) 建築学部ではA群総合教育科目a) 総合文化科目とb) 自然科学系科目に「1年次指定選択必修科目」がある。

1年次にそれぞれ2科目4単位以上, 計4科目8単位以上の修得が義務付けられている。

ただし、「基礎数学」, 「微分積分I」, 「微分積分II」の中から複数科目修得しても, すべて卒業単位とはなるが, 1年次指定選択必修科目として認められるのはそのうちの1科目のみである。

在籍3年目に, まちづくり学科, 建築学科, 建築デザイン学科への所属が決定する(休学期間の有無や3年次科目履修条件を充足している・いないに関わらない)。

3年次科目履修条件の判定は2年後期末に実施される。この時に条件を満たせない場合は, 各年度の前期末と後期末に判定される。なお, 3年前期末, 4年前期末に条件を満たした場合でも, その年度後期に開講される「建築セミナー」は履修できない。

「卒業研究」は4年次通年科目のため, 「卒業研究着手条件判定」は3年後期末に実施される。この時条件を満たせない場合は, 各年度の後期末に判定する。

注2 参照) 建築学部のA群・B群科目の修得単位数のみ算入できる。

<その他の科目修得ルール>

■ a) 専門基礎科目・選択必修科目の「構造基礎実験」「材料実験」「環境基礎実験」「測量実習」からは1科目しか履修できない。

■ 各学科必修科目「まちづくり演習」, 「建築演習」, 「建築デザイン演習」は重複履修できない。また, 所属学科で修得した科目と同一名称の建築学部他学科科目は重複履修できない。

■ 「線形代数学Ⅰ・Ⅱ」「建築幾何学Ⅰ・Ⅱ」「微分方程式論」は, 建築学科カリキュラム専門科目です。単位修得すると, 3年次に建築学科に配属した学生は【B群】専門科目b) 専門科目として, まちづくり学科と建築デザイン学科に配属した学生は他学部科目として, 区分され単位認定されます。

■ カリキュラムの経過措置と再入学生, 編入学生に対する取扱い

(イ) 学生には, 入学年度のカリキュラムが適用される。

(ロ) 今後, カリキュラムが改変された場合, 入学年度のカリキュラムにない専門科目の単位修得は「建築学部科目変遷表」(『履修の手引き』に掲載)によって認定される。また, 「建築学部科目変遷表」において, 入学年度のカリキュラムの専門科目と, それに対応する新カリキュラムの専門科目は重複履修できない。名称が異なっても, 対応科目に設定されていれば, 同様に重複履修できない。

(ハ) 再入学生, 編入学生には, 再入学, 編入学年次に該当するカリキュラムが適用される。

■ 建築学部3年次への編入生, 転籍生の履修に関する注意

3年前期の必修科目と1・2年次配当の必修科目が時間割上重なる場合は, 卒業研究着手条件を満たすという観点から1・2年次配当の必修科目を優先しなければならない。

★上記の条件を充足しているか否かの判定は、毎年度末に行う。

なお、年度末に充足できなかった場合、次年度以降の前期終了時点でも判定を行うことがあり、当学科では、以下のとおりとする。

条件の種類	前期末判定の有無
3年次科目履修条件	有
卒業論文着手	無
卒業	有（学則の定めにより）

※「3年次科目履修条件」を満たしていない者が、次の判定の時期に「卒業論文着手条件」を満たした場合、卒業論文に着手することができる。

【学則別表第5の10】情報学部情報通信工学科 進級・卒業条件表(2022年度入学生用)

群	科目区分	3年次科目履修条件	卒業論文着手に必要な単位数	卒業に必要な単位数
[第Ⅰ群] 総合教育科目	a) 総合文化科目	65単位以上	8単位以上	14単位以上
	b) 外国語科目		8単位以上(含む必修6単位)	8単位以上(含む必修6単位)
	c) 保健体育科目		必修2単位	必修2単位
	d) キャリア支援科目			
[第Ⅱ群] 専門共通科目	a) 共通基礎科目	必修27単位以上 選択必修6単位以上	12単位以上(含む必修8単位)	12単位以上(含む必修8単位)
	b) 専門基礎科目		65単位以上 注1) (含む 必修29単位 注2), 選択必修12単位以上 注3))	71単位以上 注1) (含む 必修31単位, 選択必修12単位以上)
[第Ⅲ群] 専門科目	専門科目 (卒業論文以外)			
	卒業論文			8単位以上
必要な合計単位数		65単位以上	105単位以上	124単位以上

<進級に関わる注意事項>

注1参照)本区分には、情報学部他学科設置の第Ⅱ群b)および第Ⅲ群の科目を、学部枠として最大6単位まで算入できる。
(ただし、下記に定める類似科目は除く)このとき、他学科における履修区分によらず、すべて選択科目として取り扱われる。

【注1に関わる、学部枠としての算入を認められない類似科目】

数値計算法概論(コンピュータ科学科), 数値計算論(情報デザイン学科)
情報コンテンツと知的財産(情報デザイン学科), 情報と法(システム数理学科)
計算幾何学(コンピュータ科学科), デザイン幾何学(情報デザイン学科), システム幾何学(システム数理学科)
情報ネットワーク論(コンピュータ科学科), 情報ネットワーク基礎論(情報デザイン学科),
情報ネットワーク応用論(情報デザイン学科), 情報ネットワーク概論(システム数理学科)

注2参照)ただし、情報学実験、情報通信工学実験Ⅰ、情報通信工学実験Ⅱ、情報通信工学実験Ⅲ、情報通信セミナーⅠ、情報通信セミナーⅡを含むこと。

注3参照)選択必修科目12単位には、次に示す〔第Ⅱ群b)〕及び〔第Ⅲ群〕「スマートデバイス」、「通信・ネットワーク」、「情報メディア」の3区分から、各区分につき2単位以上を含むこと。

- スマートデバイス：電気回路理論Ⅱ、電気回路理論演習Ⅱ、アナログ電子回路Ⅰ、電磁気学、電磁気学演習、電子デバイス工学
- 通信・ネットワーク：通信システム基礎、通信工学、無線通信工学、情報通信ネットワーク、ネットワークセキュリティ、移動通信工学
- 情報メディア：デジタルメディア工学基礎、システムソフトウェア、通信情報理論、通信ソフトウェア論Ⅰ、画像工学、マルチメディア工学

■表1は、判定時に情報通信工学科に所属する全ての学生に適用される。

★上記の条件を充足しているか否かの判定は、毎年度末に行う。

なお、年度末に充足できなかった場合、次年度以降の前期末時点でも判定を行うことがあり、当学科では、以下のとおりとする。

条件の種類	前期末判定の有無
3年次科目履修条件	無
卒業論文着手	無
卒業	有(学則の定めにより)

【学則別表第5の11】情報学部コンピュータ科学科進級・卒業条件表(2022年度入学生用)

群	科目区分	3年次科目履修条件	卒業論文着手に必要な単位数	卒業に必要な単位数
[第I群] 総合教育科目	a) 総合文化科目	65単位以上	8単位以上	14単位以上
	b) 外国語科目		8単位以上(含む必修6単位)	8単位以上(含む必修6単位)
	c) 保健体育科目		2単位以上(必修)	2単位以上(必修)
	d) キャリア支援科目			
[第II群] 専門共通科目	a) 共通基礎科目	必修29単位 選択必修 6単位以上	12単位以上(含む必修8単位)	12単位以上(含む必修8単位)
	b) 専門基礎科目			
[第III群] 専門科目	専門科目 (卒業論文以外)		65単位以上 注1) (含む必修27単位, 注2) 選択必修12単位以上) 注3)	71単位以上 注1) (含む必修29単位, 選択必修12単位以上)
	卒業論文			8単位以上
必要な合計単位数		65単位以上	105単位以上	124単位以上

<進級に関わる注意事項>

注1参照) 本区分には、情報学部他学科設置の第II群b)および第III群の科目を学部枠として最大6単位まで算入できる。
(ただし、下記に定める類似科目については除く)。このとき、他学科における履修区分によらずすべて選択科目として取り扱われる。

【注1に関わる、学部枠としての算入を認められない類似科目】

応用確率・統計学(情報デザイン学科), 応用確率・統計学演習(情報デザイン学科),
多変量解析(システム数理学科),
数値計算法(情報通信工学科), 数値計算論(情報デザイン学科),
通信システム基礎(情報通信工学科), 情報ネットワーク基礎論(情報デザイン学科),
情報ネットワーク概論(システム数理学科),
オブジェクト指向設計論(情報デザイン学科), オブジェクト指向設計演習(情報デザイン学科),
情報コンテンツと知的財産(情報デザイン学科), 情報と法(システム数理学科)

注2参照) ただし、必修27単位には、情報学実験(2単位), コンピュータ科学実験(2単位), コンピュータ科学セミナーI(1単位), コンピュータ科学セミナーII(1単位)を含む。

注3参照) 第III群の選択必修科目のうち、A~C区分の各科目より2単位以上修得すること。

■表1は、判定時にコンピュータ科学科に所属する全ての学生に適用される。

★上記の条件を充足しているか否かの判定は、毎年度末に行う。

なお、年度末に充足できなかった場合、次年度以降の前期終了時点でも判定を行うことがあり、当学科では、以下のとおりとする。

条件の種類	前期末判定の有無
3年次科目履修条件	無
卒業論文着手	無
卒業	有(学則の定めにより)

【学則別表第5の12】情報学部情報デザイン学科 進級・卒業条件表(2022年度入学生用)

群	科目区分	3年次科目履修条件	卒業論文着手に必要な単位数	卒業に必要な単位数
[第Ⅰ群] 総合教育科目	a) 総合文化科目 b) 外国語科目 c) 保健体育科目 d) キャリア支援科目	65単位以上	8単位以上 8単位以上(含む必修6単位) 必修2単位	14単位以上 8単位以上(含む必修6単位) 必修2単位
	[第Ⅱ群] 専門共通科目		a) 共通基礎科目 b) 専門基礎科目	12単位以上(含む必修8単位)
[第Ⅲ群] 専門科目	専門科目 (卒業論文以外)	必修27単位以上 選択必修 6単位以上	65単位以上 注1) (含む必修25単位, 注2) 選択必修12単位以上)	71単位以上 注1) (含む必修27単位, 選択必修12単位以上)
	卒業論文			
必要な合計単位数		65単位以上	105単位以上	124単位以上

<進級に関わる注意事項>

注1参照) 本区分には、情報学部他学科設置の第Ⅱ群b)および第Ⅲ群の科目を、学部枠として最大6単位まで算入できる。(ただし、下記に定める類似科目については除く)。このとき、他学科における履修区分によらず、すべて選択科目として取り扱われる。

【注1に関わる、学部枠としての算入を認められない類似科目】

統計解析学(コンピュータ科学科), 多変量解析(システム数理学科),
数値計算法(情報通信工学科), 数値計算法概論(コンピュータ科学科),
通信システム基礎(情報通信工学科), 情報ネットワーク論(コンピュータ科学科),
情報ネットワーク概論(システム数理学科),
オブジェクト指向プログラミング(コンピュータ科学科), オブジェクト指向プログラミング演習(コンピュータ科学科)
知的財産(コンピュータ科学科・情報通信工学科), 情報と法(システム数理学科)

【注1に関わる、互いに類似するため一方しか算入できない科目群】

情報処理技術概論(コンピュータ科学科), 情報処理技術基礎論(システム数理学科)

注2参照) ただし、必修25単位には、情報学実験(2単位), 情報デザイン学実験(2単位), 情報デザインセミナーⅠ(1単位), 情報デザインセミナーⅡ(1単位)を含むこと。

■表1は、判定時に情報デザイン学科に所属する全ての学生に適用される。

★上記の条件を充足しているか否かの判定は、毎年度末に行う。

なお、年度末に充足できなかった場合、次年度以降の前期末終了時点でも判定を行うことがあり、当学科では、以下のとおりとする。

条件の種類	前期末判定の有無
3年次科目履修条件	無
卒業論文着手	無
卒業	有(学則の定めにより)

【学則別表第5の13】情報学部システム数理学科 進級・卒業条件表(2022年度入学生用)

群	科目区分	3年次科目履修条件	卒業論文着手に必要な単位数	卒業に必要な単位数
[第Ⅰ群] 総合教育科目	a) 総合文化科目		8単位以上	14単位以上
	b) 外国語科目		8単位以上(含む必修6単位)	8単位以上(含む必修6単位)
	c) 保健体育科目		必修2単位	必修2単位
	d) キャリア支援科目			
[第Ⅱ群] 専門共通科目	a) 共通基礎科目	必修29単位	12単位以上(含む必修8単位)	12単位以上(含む必修8単位)
	b) 専門基礎科目		65単位以上	71単位以上 注4)
[第Ⅲ群] 専門科目	専門科目 (卒業論文以外)	選択必修6単位以上 注1)	(含む 必修27単位, 注2) 選択必修12単位以上 注3))	(含む必修29単位, 選択必修12単位以上 注3))
	卒業論文			8単位
必要な合計単位数		65単位以上	105単位以上	124単位以上 注5)

<進級・卒業に関わる注意事項>

注1参照) ただし、[第Ⅲ群]「情報インフラ」の選択必修科目2単位以上を含む6単位以上修得すること

注2参照) ただし、情報学実験、システム数理学実験、システム数理セミナーⅠ、システム数理セミナーⅡを含むこと。

注3参照) [第Ⅲ群]「経営情報」、「情報インフラ」、「データ科学」の選択必修科目をそれぞれ2単位以上含む12単位以上修得すること。

注4参照) [第Ⅱ群b+第Ⅲ群]で卒業に必要な71単位には、情報学部他学科設置の第Ⅱ群b)および第Ⅲ群の科目を最大6単位まで算入できる。(ただし、下記に定める類似科目については除く)。このとき、他学科における履修区分によらずすべて選択科目として取り扱われる。ただし、情報学部他学科設置科目は卒業論文着手に必要な65単位には含まれない。

【注4に関わる、学部枠としての算入を認められない類似科目】

統計解析学(コンピュータ科学科),
 応用確率・統計学(情報デザイン学科), 応用確率・統計学演習(情報デザイン学科),
 通信システム基礎(情報通信工学科), 情報ネットワーク論(コンピュータ科学科),
 情報ネットワーク基礎論(情報デザイン学科),
 情報処理技術概論(コンピュータ科学科),
 機械学習(コンピュータ科学科),
 知的財産(情報通信工学科, コンピュータ科学科), 情報コンテンツと知的財産(情報デザイン学科)

注5参照) 各群で区分ごとの必要最小限の単位数を合計しても、合計で必要な単位数(124単位)には到達しない。各群で必要な最小限よりも多い単位数を取得するか、いずれの群にも属さない他学科科目の履修により合計単位数を充足させること。ただし、他学科科目の場合は注4に記載の類似科目に留意すること。

■上記の表は、判定時にシステム数理学科に所属する全ての学生に適用される。

★上記の条件を充足しているか否かの判定は、毎年度末に行う。

なお、年度末に充足できなかった場合、次年度以降の前期終了時点でも判定を行うことがあり、当学科では、以下のとおりとする。

条件の種類	前期末判定の有無
3年次科目履修条件	無
卒業論文着手	無
卒業	有(学則の定めにより)